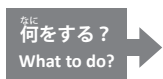


7 日本人の家を訪問する

1. 「私のクラスのインターアクション」の例



例 1)	どんな場面?	日本人宅へのホームビジット・プロジェクトを実施する。 (留学プログラムの課外活動に組み込まれていれば、それを活用。)
	誰と?	受け入れ宅の人、所属機関の教職員とその家族など
例 2)	どんな場面?	地域の日本人宅を訪問して特定のテーマについてインタビューするプロジェクトを行う。
	誰と?	地域住民
例 3)	どんな場面?	受け入れ宅へのホームステイ初日 (留学プログラムに組み込まれていれば、それを活用。)
	誰と?	提携宅の家族
例 4)	どんな場面?	地域住民、日本人学生などを教室に招き、日本人宅訪問のシミュレーションを行う。
	誰と?	地域住民、日本人学生、所属機関の教職員など



日本人宅に訪問し、そこでさまざまな話をして楽しい時間を過ごす。

2. デザインのポイント／注意点

- この活動は、留学生が日本式の行動様式をマスターすることを最終目標とするのではなく、日本人宅訪問のマナーなどを知った上で、無理せず自分らしく、かつ訪問先の相手にも誤解を与えることのないよう振る舞うことができることを目指します。
- 他の課以上に、インターアクションの相手の特性（相手との関係、同居人の有無、家族構成など）や場面の要素、つまり、いつ（何時に訪問するか）、訪問の目的（一緒に食事をするか、遊びに行くだけか保証人のお願いをしに行くかなど）、初めての訪問か2回目以上かなどによって、インターアクションの流れや、挨拶のしかたなどが大きく影響を受ける活動です。そのため、できるだけ訪問相手の属性を詳しく想定して、活動をデザインすることが成功の秘訣と言えるでしょう。重要な要素は付属 CD-ROM 収録の『じゅんぴシート』にも挙げてありますので、授業を計画する際にもご参照ください。

- 実際の日本人宅訪問を実施できるのが理想ですが、諸般の事情で難しいかもしれません。その場合、例4の活動のように、誰かを教室に招いて、訪問のシミュレーションなどを行ってもいいと思います。
- 紙幅の関係上、本冊PART 2で取り上げることができなかった学習項目や事前に押さえておくべきポイントがあります。以下のものは、比較的どのような場合にも当てはまるものではないかと考えられます。適宜、「PART 2 じゅんびしよう」を授業で行う際に追加してください。

◆ 訪問先の日本人が使いそうで学習者が理解できなさそうな表現

「足を崩す」「正座」「楽にする」「<家族の職業を聞かれるとき>何をされているんですか」など、使える必要はなくても、学習者が聞いたとき、意味がわかるようにしておいたほうがいい表現があると思います。その土地の方言特有の言い方なども補っておくといいでしょう。

◆ 挨拶表現や決まり文句

訪問相手や状況によって、本冊PART 2で取り上げたもの以外にも事前に紹介し、使えるようにしておいたほうがいい挨拶表現や決まり文句があると思います。例えば、トイレを借りたいときの「お手洗いを借りてもいいですか」などは補足しておいてもよいでしょう。

- すでに日本人宅にホームステイ中の学習者や、超短期留学プログラムの参加者などは、この課の学習項目に対して必要性を感じず、取り組みが消極的になるかもしれません。その場合、この課で学習したことから日本人宅訪問時以外にも活用できるというメリットを強調するといいでしょう。例えば、苦手な飲食物の断り方や、言いたくないことの回避方法は、個人宅訪問時以外にも使えます。その部分にフォーカスして、PART 3の活動中に断り方や話題の回避の方法を工夫してみるよう学習者に勧めることも可能です。また、PART 3の活動は敬語を実際に使ってみる貴重な機会だと指摘することもできます。

3. 活動の流れの例

(1) 事前準備

- ビジターとして参加してくれる日本人の募集します。
 - *以下の活動例では、学習者15名のクラスに対し、5名のビジターを募集するという設定です。
- 必要なものを準備しておきます。
 - *必要なら録音機器、人数分の茶葉と飲み物、お盆など
- 当日、活動後に行うビジターに対するアンケートを作成します。
 - *当日の学習者の言動について気づいた点をビジターに答えてもらうアンケートを作成します。
- 可能であればEメールやSNSなどで、ビジターと学習者との交流をしておくといいでしょう。
 - *学習者1人1人にビジターとのEメールのやり取りをさせるのが学習者の負担になるようであれば、学習者の近況をクラスやプログラムのブログ、SNSなどで公開するのもいいでしょう。あるいは、メールマガジンを発行し、配信するのもいいでしょう。

(2) 当日の活動の流れ (60分の場合)

「私のクラスのインターアクション」例4)「日本人宅訪問シミュレーション」の場合

●以下は、茶道などで使う大学の和室に日本人を招きビジターセッションを行うという設定です。

時間配分	活動の進め方		備考
10分	準備	<p>◆場所の準備をする。必要なものの搬入。</p>	<p>・茶菓子、飲み物、録音機材 (必要なら)</p>
	活動の説明	<p>◆教師がビジターに活動内容、注意点などを説明する。</p> <p>* 場面設定、全体の流れを説明する。</p> <p>* 途中、ビジターに茶菓と飲み物を出してもらえよう依頼する。</p> <p>* 特定の学習者に発話が偏らないよう、質問や話題などを均等に振ってもらえよう依頼する。</p> <p>* 避けたほうがよい話題や質問があれば伝える。</p> <p>* 録音、連絡先を聞く許可を取る。</p> <p>◆学習者3名から成るグループ (メンバーはあらかじめ決めておく) に日本人ビジターを1人ずつ割り当てる。</p> <p>* 学習者への指示があればここです。</p>	
40分	活動	<p>◆グループで日本人宅訪問のシミュレーションをする。</p> <p>①合図をし、インターホンで呼び出すところから始める。(インターホンで話す代わりに、和室の入り口の戸越しに話す。)</p> <p>* あらかじめ3名の学習者それぞれに1) インターホンで呼び出す係、2) 手土産を渡す係、3) 帰り際にいとまごいをする係のように役割を与えておくと混乱が避けられる。</p> <p>②座って会話を始める。</p> <p>* 途中ビジターに茶菓子と飲み物を出してもらおう。</p> <p>* 特定の学習者が話し続けることがないように、ビジターに協力してもらおう。</p> <p>* 学習者の意識の中でのリアルさを出すため、この部分は事前に役割をきっちりと決めないほうがいい。</p> <p>③時間が来たら合図を出し、学習者にいとまごいを促す。</p> <p>④家を出る挨拶まで行って、活動終了。</p>	<p>・録音する</p> <p>・家に上がり座ってから、いとまごいするまでの会話のみ評価対象とする</p>

時間配分	活動の進め方		備考
10分	事後処理	<p>◆ビジターに対して、学習者の言動について気づいた点のアンケートを行う。</p> <p>◆ビジターの連絡先がわからなければ、お礼状／お礼のEメールを書くために、ビジターに住所、もしくはEメールアドレスを聞く。</p> <p>◆時間が来たら日本人ビジターにお礼を言い、片づけをする。</p>	・録音機材回収（必要なら）

(3) フォローアップタスク

- ここでは、訪問のお礼状／お礼のEメールを書いてビジターに送るための準備として、活動当日、ビジターと話したこととその簡単な感想をA4の紙1ページに収まる程度に箇条書きで書きだしてもらいます。
- まず、録音を聞いて『ふりかえりシート』を記入してもらい、その後で『ふりかえりシート』の裏側に書いてもらうといいでしょう。
- 学習者1人1人に活動当日話したビジターへのお礼状／お礼のEメールを書いてもらいます。メールとお礼状の書式は教科書4課、10課の一部を使って導入ができるでしょう。
- お礼状／お礼のEメールへの返事がビジターから送られてきた場合、生教材となるので、読解活動を行うことも可能です。

4. 活動実施のポイント／注意点

- 実際に日本人宅訪問ができる場合でも、2名～数名1組の学習者を同じ家に同時に送ることになるでしょう。その場合、よく話す学習者とおとなしい学習者を同じグループにしないなど、できるだけ各学習者が訪問相手と話す機会が平等になるように工夫が必要です。協力者の日本人に依頼し、特定の学習者に発言が偏らないよう時々、話す相手を変えてもらうなどの対策が必要でしょう。
- 訪問先の日本人が学習者の聞かれたくない質問をしてくるという問題は、実際、深刻なようです。本書の試用段階で実際に次のようなケースがありました。

- 日本人に個人的なことなどを根掘り葉掘り聞かれたが、相手が年上なので失礼があっではいけないという意識が働いた。
- 敬語の使用に不慣れなので、さらにうまく対処ができなくなりました。

本課のPART 2 **POINT 5** (pp. 138-139) でも聞かれたくない質問への回答を回避する方法を取り上げていますが、これ以外にも話題の回避方法などを準備の段階で導入してもいいかもしれません。また、協力者の日本人にあらかじめ、学習者が聞かれたくないと思っていることならについての質問をしないよう依頼しておく必要もあるでしょう。

- 実際の日本人宅訪問は、さまざまなリスクを伴います。また、万全を尽くしたつもりでも思わぬところで訪問先に負担を強いてしまっている恐れもあります。例えば、学習者が道に迷って約束の時間どおりに訪

問先に到着しなかったり、訪問先の人と話が盛り上がってついつい長居してしまったりということがあるかもしれません。活動の継続ができるよう、活動実施後、訪問先の方にヒアリングやアンケートに協力してもらい、回を重ねるごとに、あらかじめ回避し得るトラブルの種が少なくなるようにしたいものです。